

豪華ゲスト陣で

50回目「本條会」

5日、国立大劇場

三味線奏者の本條秀太郎
||写真||率いる本條流公演

「本條会」が

九月五日午前

十一時と午後

四時半の二



回、東京・国立大劇場で開かれる。俚奏樂(りそうがく)(三味線を主体とした新邦樂の一種)、民謡、端唄などバラエティー豊かな音楽と多彩なゲストで構成する各回四時間の祭典。本條は「面白く飽きさせない工夫が盛りだくさん」と趣向を語っている。

「三味線で日本のさまざま

まな音楽を表現してみた」と会を始め、今年で五十回目。五年に一度は国立劇場での公演を実施してきた。

節目の今回はゲスト陣が豪華。女優の島田歌穂、歌手の金沢明子、鳴り物の仙波清彦、現代箏曲家の吉村七重、尺八奏者の三橋貴風、民謡歌手の鈴木正夫、高橋キヨ子、小唄の田毎てる三(三浦布美子)、端唄の栄芝らが次々登場する。

会は二百人の三味線奏者で弾く本條流祝儀曲「松」で幕開け。第一部はスーパ―民謡絵巻「謡国土」。青森の「ナオハイ節」、岩手県の「南部牛追唄」、俚奏樂の代表曲の一つ「雪の山中」などを予定。第二部は「端唄を綴る花暦」で「並木駒形」「とつろう売り」など。第三部は本條が創作に挑んだ現代神樂「スサノヲ頌歌」。「『スサノヲ』は和風ミュージカル風に仕立てた。躍動感のある作品ができた」と本條。

橘音楽株式会社 || 電 03・

3303・5180。

(ライター・真壁聖一)